

文化学園服飾博物館だより

第10号 1997. 4. 1



ヨルダン「ジャパン・ウィーク」の『日本の服飾文化展』を
ご覧になるハッサン皇太子ご夫妻と高円宮ご夫妻



ヨルダン「ジャパン・ウィーク」の『きものショー』フィナーレ



『ブルガリアの女性と伝承文化展』テープカット（左より）N.
テネヴァ国立民族学博物館主任学芸員、V.ガツィンスキ駐日ブル
ガリア共和国大使、大沼館長、尾郷良幸日本対外文化協会専務理事



『ブルガリアの女性と伝承文化展』結婚の儀式にまつわる衣装

◇服飾博物館の国際交流◇

民族衣装の理解には、その国の人々との交流を深め、風土や暮らし、精神世界や美意識に触れることが
欠かせませんが、今年度はヨルダン、ブルガリアと密接な協力関係を築くとともに、日本の服飾文化の紹
介につとめました。

6月8日より2週間にわたって、ヨルダンの首都アンマンで行われた「ジャパン・ウィーク」のメイン・
イベントとして、服飾博物館は『日本の服飾文化展』と『きものショー』を開催しました。博物館所蔵の
衣冠や桂袴など近代の宮廷衣装、井伊家伝来の能装束、江戸から大正までの小袖を展示し、日本の服飾美
のエッセンスを史上初めて中東の国に伝えることができました。『きものショー』では豪華な花嫁衣装や振
袖、今年度の文化女子大学のファッションショー作品の和風ドレスや大使館員のお子さんたちの可愛ら
しい七五三姿などが大変好評でした。アンマンの日本大使館、青年海外協力隊など様々な分野の方々から惜
しみない協力が寄せられました。

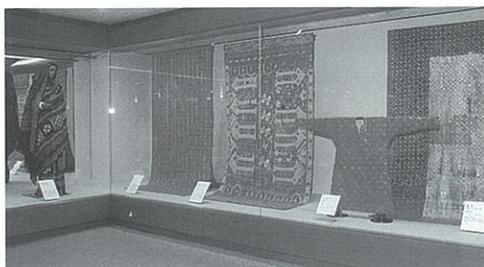
12月20日から服飾博物館で、ブルガリア国立民族学博物館所蔵資料による『ブルガリアの女性と伝承文
化展』が、多くの人々の熱意と協力のもとに開催されました。展示構成を担当したテネヴァ主任学芸員、
コミツカ、ミラディノフ両学芸員も来日し、ブルガリアの伝統的な暮らしや女性の一生の中で、糸を紡ぎ
織り刺繍し美しい民族衣装を作る意義を知る良い機会となりました。

'96年度活動報告

◇展 示◇

【晴れの装い】 4月5日～6月21日

儀礼、祭礼、年中行事、社交など晴れの場における装いには、それぞれの目的や立場によって特別な意味を持った色、模様、素材が選ばれています。本展では特に一生のうちで最も晴れやかな婚礼の装いを日本、ヨーロッパ、アジアと地域別に紹介し、その他に七五三の祝着、洗礼式のベビードレス、東欧の舞踊衣装、ヨーロッパのイヴニングドレスなどを展示しました。



インド、インドネシアの婚礼衣装

【近年の寄贈品紹介 ～明治～昭和の装い～】

9月3日～27日

近年、当館の活動をご理解下さり、貴重な品々のご寄贈が多くなってまいりました。それらの寄贈資料の中から『明治～昭和の装い』と題して一部を紹介しました。展示は和装と洋装とで構成し、和装は婚礼衣装、外出着、日常着など女性の着物を中心に、また、洋装は大礼服、軍服、フロックコート、燕尾服などを出品しました。



軍服とドレス

【館蔵優品展・日本の服飾 ～宮廷衣装、武家服飾、小袖、能装束～】

10月18日～11月29日

当館における日本関係の資料は質、量ともにたいへん充実しております。『館蔵優品展・日本の服飾』は、この中から公家装束の伝統を受け継いだ近代の宮廷衣装、大名家旧蔵の陣羽織と火事装束、江戸時代後期の最高峰に位置する三井家旧蔵の小袖、彦根藩主井伊家旧蔵の能装束など優品を一堂に展示しました。日本人の美意識が見事に表わされたそれぞれの展示品を、来館された方々に堪能していただきました。



十二単と桂袴

【ブルガリアの女性と伝承文化 ～風土・こころ・暮らし～】

12月20日～3月14日

ブルガリア国立民族学博物館、日本対外文化協会、国際文化研究会との共催で、ブルガリアの女性たちが伝えてきた民族文化を同館の所蔵品によって紹介しました。展示は、誕生、母と娘、結婚までの日々、結婚、民俗行事などで構成され、見事な刺繍の民族衣装や生活用具など充実した展示品はたいへん好評でした。1月18日にはブルガリア国立民族学博物館のN. テネヴァ主任学芸員による講演会「ブルガリアの女性と民族衣装」が、また2月15日にはブルガリア出身の手芸家、山美イレンさんによるブルガリア刺繍の講習会が開かれました。



若い男女の衣装

◇資料収集◇

'96年度の主な収集品は次の通りです。

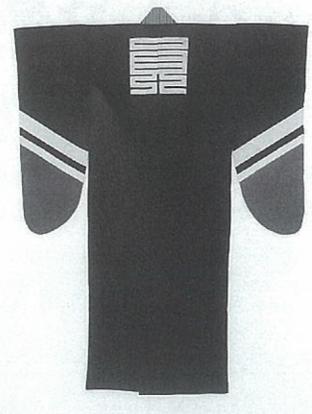
「日本」は明治末期の三枚重の婚礼衣装、火消半纏、木綿友禅の着物など、年々収集が困難になりつつある近代の服飾や庶民関係の服飾に力を入れました。「西洋」は1810年代のコート、1840-50年代のウェディングドレスなど体系的に見て不足な部分を補っていくように進めています。「アジア・その他の地域」ではモロッコ、チュニジアなど北アフリカと中近東、中央アジア地域を中心に収集しました。

寄贈者および寄贈資料は次の通りです。

収集にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。
 寄贈者：婚礼用髪飾り
 寄贈者：羽織
 寄贈者：苗族の衣装
 寄贈者：着物、羽織、帯他
 寄贈者：燕尾服、タキシード
 寄贈者：婚礼用振袖他
 寄贈者：着物
 寄贈者：靴（ロジェ・ビビエ）
 寄贈者：イランのフェイスベール
 寄贈者：トルコのベスト
 寄贈者：羽織、和装バッグ他
 寄贈者：背広、マント
 寄贈者：インドの子供服
 寄贈者：パレスチナのコート、ドレス
 寄贈者：ドレス
 寄贈者：男児着物、羽織他
 寄贈者：打掛、能装束、髪飾り
 寄贈者：束帯、桂袴他
 寄贈者：着物、羽織、帯他
 寄贈者：婚礼衣装、着物、羽織、和装小物他
 寄贈者：着物、羽織他
 寄贈者：振袖他
 寄贈者：インドネシアの民族衣装
 寄贈者：ブルガリアの民族衣装（敬称は略させていただきました）



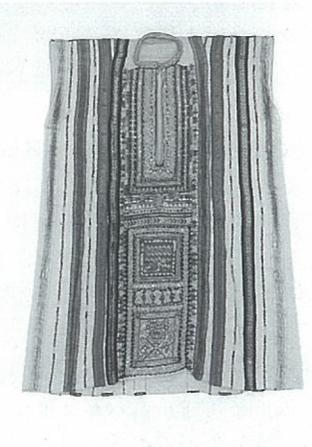
婚礼用打掛 大正時代（寄贈）



六尺看板 江戸時代後期



ウェディングドレス
イギリス 1840~50年代



婚礼用シャツ
チュニジア 20世紀前半

◇資料の館外貸出◇

館蔵資料の貸出しを次の通り行いました。

- ・東京都庭園美術館 「旧朝香宮邸のアー・デコ」 4月1日～5月26日
朝香宮鳩彦着用のフロックコート 1点、朝香宮允子妃着用の大礼服のトレーン 1点
- ・東京農工大学工学部付属繊維博物館 「布を縫う ～ミシンの発明から現在まで～」 5月22日～26日
ミシン（ホイラー・アンド・ウィルソン製 1853年）1台
- ・愛媛県歴史文化博物館 「伊予八藩の大名」 7月14日～9月1日
伊予大洲藩10代藩主加藤泰济着用の火事装束 1具
- ・山野楽器 「越路吹雪写真展」 11月18日～26日
越路吹雪着用の舞台衣装（ニナ・リッチ 2点、サンローラン 1点）

◇『ファッション創造の歩み10年展』の開催◇

文化女子大学家政学部服装学科主催による『ファッション創造の歩み10年展』が当館で7月10日から8月3日まで開催されました。服装学科被服構成コース、服装デザインコースでは、企画から縫製、演出、モデルにいたるまですべて学生の手によるファッションショーを1986年から毎年4月に行っておりますが、これまでの集大成としてこの展示が計画されました。時代のトレンドに乗ったカジュアルなものからフォーマル、またオブジェ風のものなど過去10年間に製作された約1,000点の作品の中から150点あまりが厳選され、出品されました。学生の創意にあふれる作品の展示は、普段の博物館とは異なった大変華やかな雰囲気をかもし出し、また幅広い分野からの多くの来館者を迎え、高い評価を得ました。

'97年度展示案内

【西洋服飾の流れ ～女性の装い 1760-1960～】 4月5日～5月30日

西洋服飾史の流れの中から18世紀から20世紀前半までを取り上げ、館藏品の中から展示。華やかなロココ時代に始まり、シルエットが目まぐるしく変化していく19世紀から20世紀初めにかけてのエンパイア、ロマンチック、クリノリン、バスル、アール・ヌーボー、アール・デコの各スタイル、さらに現代のオートクチュールのデザイナーと時代を追って紹介します。

【藍の布・藍の衣】 6月18日～8月5日

藍は、特に日本においては多くの植物染料の中で最も好まれた色です。紺や縞、絞り染の着物、刺子や裂織の仕事着など庶民の染色として親しまれてきましたが、小袖、熨斗目小袖、袴などにも多く用いられました。本展はこれら日本の藍染めと共に、中国・苗族の衣装、インドネシアの巻衣、インドの更紗布など各地の藍染めの布、服飾を広く紹介します。

【特別展 遊牧の民に魅せられて ～松島コレクションの染織と装身具～】 9月25日～11月21日

インド西部からパキスタン、アフガニスタン、トルコに暮らす遊牧民の染織品収集家として知られた故松島きよえさんのコレクションの多くが当館の所蔵品となりました。現地の生活に溶け込みながら集められた敷物、衣装、装身具はどれも、生活の変化の激しい今日では貴重な資料となっています。苛酷な環境の中から生み出された力強い生活の美をお伝えします。

*以上の予定は都合により変更されることがあります

利用案内

【開館時間】 平日：午前10時～午後4時30分／土曜日：午前10時～午後3時（入館は閉館の30分前まで）

【休館日】 日曜日・祝日・年末年始・夏期休暇／6月23日／11月5日、6日／展示替の期間

【入館料】 一般300円・学生200円（20名以上の団体は一般200円・学生150円） 特別展は別料金

※文化学園の職員・学生は無料。また職員が同伴する方も無料

文化学園服飾博物館だより 第10号

編集・発行 文化学園服飾博物館
〒151 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL.03-3299-2387

学校法人文化学園：文化女子大学・文化服装学院・文化外国語専門学校・文化出版局・文化事業局・文化学園服飾博物館